



HIROSAKI
UNIVERSITY

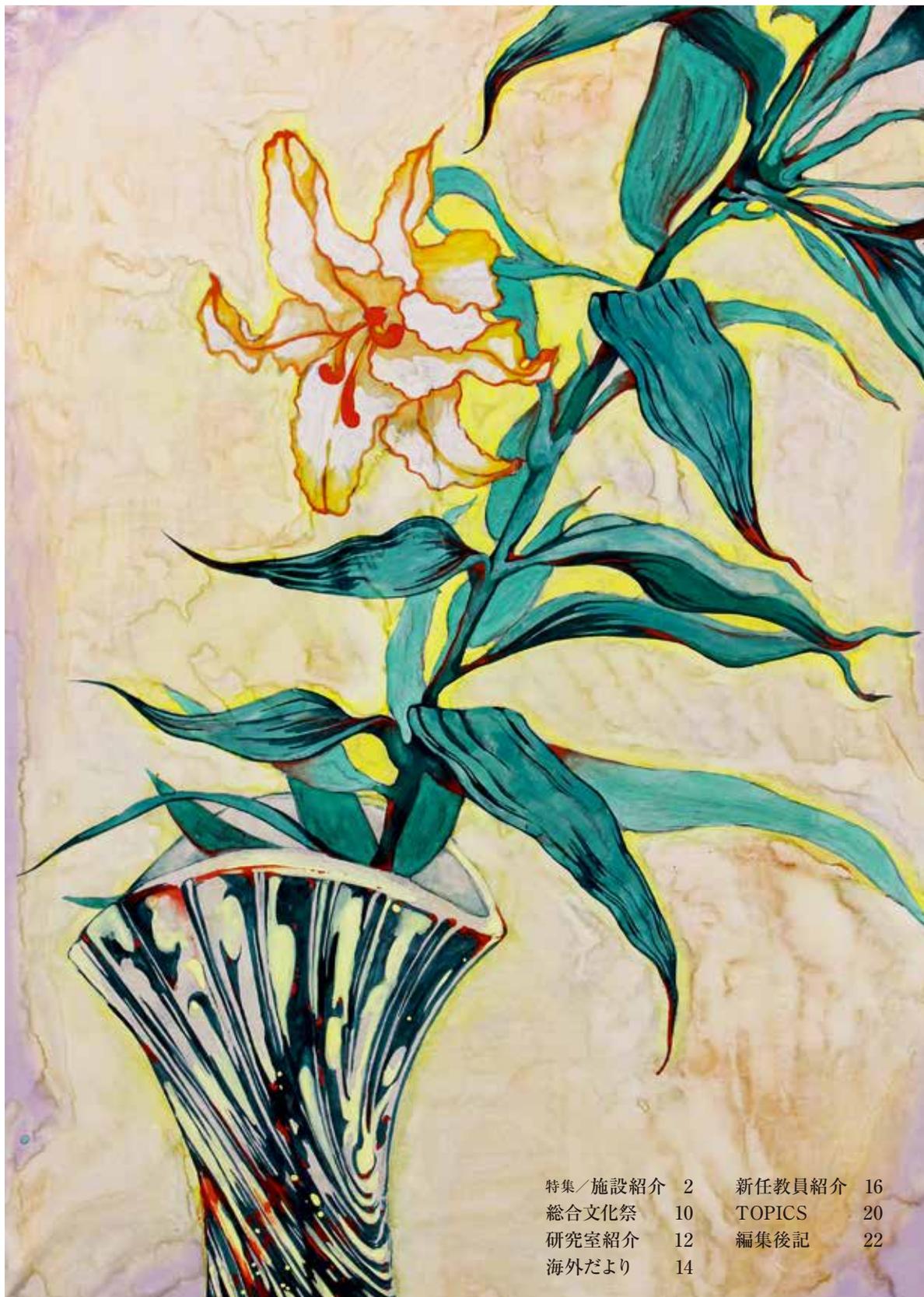
学園だより

2024 冬
弘前大学
Vol.211

特集

施設紹介

教育学部附属次世代ウェルビーイング研究センター
弘前大学オープンイノベーションプラザ



作品名：「LILY IN FILM」 日本画 サイズ：51.5×36.4cm 制作：教育学部 特別聴講学生 マイク・セラフイニ

特集/施設紹介	2	新任教員紹介	16
総合文化祭	10	TOPICS	20
研究室紹介	12	編集後記	22
海外だより	14		



教育学部附属次世代ウェルビーイング研究センター

小さな〈対話的理性〉の構築に向けて

教育学部教授・次世代ウェルビーイング研究センター長
今田 匡彦

はじめに

2023年7月、教育学部に次世代ウェルビーイング研究センターが設立されました。この新しいセンターに託されたのは、超人口減少地域の、子ども、教師、社会のWell-beingを実現することです。センターではこの実現に向けて、教育課題調査部門、データベース・アーカイブ部門、教育プログラム開発部門、地域連携部門、そして多文化共生部門の各セクションが、さまざまな地域課題に取り組んでいます。



多文化キッズキャンプ2024



帝京ロンドン学園（英国）訪問

Well-beingということばは半世紀前にWHO憲章にて“Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity”と初出しました。ハイフンで連結されたWell-beingは、新しいが故に一筋縄では行きません。そのため、センターではこのことばに特定の意味を付与することなく、自由に泳がせようと考えています。子どもと、教師、そして社会の関係は、入れ子構造です。教師は少し前まで子どもだったし、子どもはやがて大人（もしかしたら教師）になります。子どもと大人（或いは教師）の二項対立は社会がつくりませんが、その社会も変化します。そのような、青森県を基盤としたダイナミックな営みを調査・研究し、未来のウェルビーイングを構築することで、これまで実は存在しなかったかもしれない〈子ども〉の誕生に寄与するのが、このセンターの役割のひとつです。

Well-beingということば

理性の時代

学校とは、〈近代的な理性のありよう〉を学ぶ場所なのかもしれません。〈理性〉は数字を含む言語によって組み立てられる論理思考です。そして、この論理思考を身に着けたヒトは、〈知識人〉と呼ばれたりします。

ウェールズ出身の批評家レイモンド・ウィリアムズは、この言語による論理思考を縦横無尽に使いこなされる才人でした。批評のみならず、小説、劇作と多岐にわたった彼の仕事のなかで、私が重宝しているのは、1976年の著作、*Keyword: A Vocabulary of Culture and Society* (Oxford University Press)です。この著作中〈知識人: Intellectual〉をキーワードとして取り上げた箇所 (Williams, 1976, pp.121-125) では、16世紀から19世紀にかけて、特に英国で、この単語がどのように扱われてきたのか、さまざまな用例に基づいて説明されています。たとえば、“the more or the most intelligent”とある種の差別化をはかったり、rationalism (合理主義) の別の言い方であるとしたり、今日的には社会的地位や教育、エリートといった言葉と関連したり…そのような記述の後、IQとしての一般化を指摘しています。

〈知識人〉に関連する〈理性〉〈知性〉〈論理〉〈合理性〉等のことばを、哲学では〈ロゴス、logos〉と呼びます。古代ギリシア時代から使用されている〈ロゴス〉ですが、〈ロゴス〉が〈理性〉として最も〈合理的〉に機能したのが、ヨーロッパの科学的啓蒙の時代、すなわち〈理性の時代〉です。産業革命、フランス革命を包摂する〈理性の時代〉は、実証主義、科学主義、合理主義に象徴されます。

キッドの『社会進化論』で適者生存として誤用され、〈最も産業化を遂げた民族が、最も進化した民族〉といった今日的な考え方の導火線となった〈進化論〉もこの時代を特徴づけますが、当のダーウィンは『種の起源』で、〈種〉を方向性のない〈変換〉 (transmutation)、〈修正〉 (modification) を繰り返し続けていくものとして捉えていて、実は〈進化〉 (evolution) を否定しています。しかし、古代・中世には〈自由学芸: liberal arts〉に含まれていた音楽が、〈機械的技術: mechanical arts〉としてギルドの世界の住人であった絵画、彫刻等と融合し、あらたな〈芸術〉の枠組みを形作ったのも、この〈理性の時代〉の出来事です。合理主義によって排除された神の役割は、新しく生まれた〈創造的〉〈独創的〉な〈天才〉或いは〈神童〉としての〈芸術家〉によって代替されることとなります。バロック、古典派の時代に、王侯貴族の庇護の下にあった音楽家たちは、フランス革命以降の市場経済社会では、より商品価値の高い〈芸術家〉として生き残る必要がありました。故に彼らは、当時のトレンドである〈天才〉になる必要がありました。この潮流がゴルドンやピアソンによる〈優生学〉の誕生に繋がった、とも考えられます。

20世紀に入り、〈理性の時代〉を〈啓蒙は文明から野蛮への転落〉と断じたのは、フランクフルト学派のテオドール・アドルノです。本来は〈光〉であるはずの〈啓蒙：enlightenment〉が、なぜホロコーストという〈闇〉を生んだのか、それは実証主義、科学主義、合理主義が単なる道具としてアブユースされ、形而上学的な検証がなされなかったから、と彼は考えました。このスクールの第2世代であるユルゲン・ハーバーマスは、実証主義、科学主義を基盤とする政治・経済システムが、市井の人々の対話的理性を合理的に植民地支配することを批判し、すべての参加者の誠実な発言による包摂的コミュニケーションを標榜します。

〈システム〉は、マニュアル優先で匿名的なので、とても流動的に機能します。私たちが

Starbucksに行くのは、その〈システム〉を信頼しているからです。対比的に私たちの〈生活世界〉には、行きつけの喫茶店があるかもしれません。そこはマニュアルではなく、店主の自発性が優先されるので、たまには半額にしてくれたり、新しいメニューを無料で試させてくれたり、Starbucksでは想定しないことが起こります。人格信頼で成り立つ〈生活世界〉の喫茶店は、故に、非流動的なので、いつ潰れてしまってもおかしくありません。ハーバーマスは、この〈生活世界〉を大切にしろ、と言います。超人口減少社会では、子どもたちや先生たちが生きる〈生活世界〉を重視するべきなのでしょう。

理性の時代から、小さな理性の時代へ

子どもも先生も、〈対話的理性〉をもって暮らしています。この〈理性〉はとても小さいので、放っておくと、あったのになかったことにされたり、或いは、大きな〈システム〉に抑圧されたりもします。センターでは、〈生活世界〉の小さな〈対話的理性〉を、出来るだけ透明に聞き取り、写し取ろうと苦心しています。

生活世界のことばを聞き取る

昨年度センターでは、西津軽地域を超人口減少地域の最先進地と位置づけ、鯉ヶ沢町、つがる市、深浦町の全中学生（悉皆調査）、及び本学教育学部附属中学校の生徒を加えた「中学生の生活と意識調査」

（回答数=1,072、回答率=83.6%）を実施しました。今後この調査を、県内別地域でも実施するとともに、調査結果を踏まえた質的研究に繋げていきます。

先生たちへの聞き取り調査も、昨年度から継続しているセンターの重要な仕事です。超人口減少社会で起こる学校統廃合は、そこに確かに存在していたはずの小さな〈対話的理性〉の痕跡を、跡形もなく消し去ってしまいます。センターはこの痕跡を集め、ことばとして再構築していくことを目指します。

障害・発達障害のある子どもたち、そして彼らの子育て、経済困窮や家族関係困難などの問題は、超人口減少地域ならではの様相を呈しつつ顕在化します。センターの多文化共生部門では〈子ども・若者ワンストップ相談会〉を実施することで、この問題に取り組んでいます。また、青森県をはじめとする外国人散在地域での外国につながる子どもたちの孤立に対応すべく、NPO法人ひろだい多文化リソースルームが主催する〈多文化キッズキャンプ〉を共催しています。



立教英国学院訪問

困っていること、専門家に相談してみませんか？

第2回 子ども・若者 ワンストップ相談会 **参加無料**

あつちのことでも、学校のことでも、自分の将来のことでも、小さな悩みでも大きな悩みでも、何でも…専門家（福祉、教育、法律、医療、心理、行動など）の人たちに無料で相談できます。どの専門家に相談すればいいか、わからなくても、事前申込や当日受付で相談すれば、相談内容に合った専門家とマッチングしてもらえます。子どもや若者はもちろん、家族や周りの人でも相談できます。受付時間の限らなく、いつでも大丈夫！出入り自由です！

2024. 8.18 (日) 13:00-16:00
場所 弘前市民文化交流館ホール
 (七口口4F：青森県弘前市駅前町9-20)

申込方法

【1】参加申込の機会
 弘前市民交流センターのホームページから必要事項を入力し、送信してください。専門家はマッチングのため、相談内容をお知らせします。当日は相談時間までにお越しください。

【2】当日受付の機会
 13:00～16:00まで受付しています。受付から相談するお悩みをお話いただくこともありますのでご了承ください。

【3】お悩みに合わせた個別の機会
 相談内容により、個別の機会をさせていただきます。11:45～12:00頃に以下のQRコードより「当日受付」をして、7月～7月相談内容をお話してください。専門家は事前にお知らせいたします。

主催：弘前大学教育支援センター、弘前大学教育支援センター
 協賛：弘前大学教育支援センター、弘前大学教育支援センター
 協賛：弘前大学教育支援センター、弘前大学教育支援センター
 協賛：弘前大学教育支援センター、弘前大学教育支援センター

お問い合わせ：Email: hi-yoshida@hirosaki-u.ac.jp (言語支援)
 TEL: 0172-39-3862 弘前大学教育学部 6階 (7F)



センターでは、コミュニティスクールにおける健康教育も、八戸市教育委員会、本学健康未来イノベーション研究機構と共同主催しています。他学部との連携は総合大学の利点であり、また責務でもあると考えます。

子ども、教師、社会のWell-beingをめぐるさまざまな研究を、国内から海外、そして海外から国内へ発信するために、センターでは国際ウェブジャーナル（オープンアクセス）*Research Studies in Next Generation Well-Being* (ISSN:2759-503X) の刊行を予定しています。編集委員会にはカナダ (Simon Fraser University)、オーストラリア (Charles Darwin University)、台湾 (MOE Aesthetic Education Network Project)、シンガポール (Nanyang Technological University)、ドイツ (University of Applied Sciences Düsseldorf)、韓国 (Hanyang University)、英国 (Brunel University及び University of Portsmouth) から8名の研究者を国際編集委員として招聘しています。投稿論文（英語または日本語）は随時受け付けておりますので、以下をご参照下さい。

https://hirodai-wellbeinh.com/wb_e/journal/

以上を踏まえ、今後センターでは、Well-beingに根差した小さな〈理性〉のための教育プログラムを創出していきます。2025年2月1日には、哲学者朱喜哲氏を基調講演者に迎えたシンポジウムを創立50周年記念会館みちのくホールにて2月13日には、勝山こうへい氏、平田金重氏 (kane&kohe) によるセミナーを同岩木ホールにて開催予定です。

当センターについては、以下のWebsite及び左記二次元バーコードをご参照下さい。

<https://hirosaki-wellbeing.com>

弘前大学オープンイノベーションプラザ



弘大生協食堂と第一体育館の間にある青い壁の建物が「弘前大学オープンイノベーションプラザ」です。旧合宿所を改修し、令和6年4月より本格的に稼働しています。

本施設は、スタートアップマインドを持つイノベーターの育成や、若い起業家を育む起業支援の拠点として設置されました。

- スタートアップや起業って最近よく耳にするけど、ちょっと興味があるかも。
- 起業に関する情報や知識ってどこで得られるのだろう。
- 弘前大学では起業についてどういったサポートをしているのだろう。
- 事業のアイデアを考えてみたけど、専門家に助言してほしい。
- 大学発ベンチャー企業って、私でもできるのかな。

こういった起業に関する疑問・意見をお持ちの方が、学内の先生方、学生さんの中にいらっしゃるのではないのでしょうか。



研究・イノベーション推進機構では、スタートアップマインドを持つ方を講師とした「スタートアップサロン」や、先輩起業家の体験談を聞ける「先輩起業家との交流会」を開催し、オープンイノベーションプラザを拠点として、起業家とのふれあいの場や、青森県内で活躍する起業支援者との交流の場を設けています。「オープンイノベーションプラザ」は、本学が令和4年度に採択された内閣府「地域中核大学イノベーション創出環境強化事業」の一環として整備されました。同事業は、地域の中核となる大学が、独自のミッション・ビジョンに基づく強みや特色を最大限発揮し、地域ニーズに即した社会貢献活動を推進するとともに、同活動を通じた地域行政や産業界からの投資誘発を通じて、大学の財源多様化を進めることを目的としています。

利用可能スペース

オープンスペース（利用人数：50名まで）

- イベント・講演などに利用できます。予約が必要です。
- 貸切時以外は、学内学生・教職員の自主学習の場として利用いただけます。
- 教育（授業・ゼミ・実習など）目的での利用は、起業に関する内容を除きお断りしていますのでご注意ください。

貸出備品は、予約時に申請してください。

- ・ 86型デジタルホワイトボード（大型モニター）
- ・ 可搬型音響設備（マイク3本）
- ・ 可搬型ホワイトボード（3台）
- ・ HDMIケーブルなど



ミーティングスペース（利用人数：6名まで）

- 起業相談や、グループワーク・会議・打合せなどに利用できます。予約が必要です。

貸出備品は室内に備えています。

- ・ 55型デジタルホワイトボード（大型モニター）
- ・ HDMIケーブル



プレゼンテーションスペース（利用人数：11名まで）

- グループワークや発表・会議・打合せに利用できます。予約が必要です。

貸出備品は室内に備えています。

- ・ 65型デジタルホワイトボード（大型モニター）
- ・ HDMIケーブル



個室ブース（2台）

- ・ WEB会議・自主学習など
- ・ 予約不要です。
- ・ 1人あたり最大利用時間は1時間としますのでご協力をお願いします。



オープンイノベーションプラザの利用方法

利用時間	授業期間／10：00～17：00まで 休業期間／10：00～14：00まで ※時間外の利用については要相談です。
開放日	月曜日～金曜日 ※土日祝日、夏季一斉休業、年末年始（12月28日～1月4日）は利用不可です。

【申請フォーム】

各スペースについて貸切利用を希望される場合は、弘前大学研究・イノベーション推進機構HP内オープンイノベーションプラザのページのGoogleカレンダーにて空き状況を確認のうえ、GoogleFormsから利用日の1週間前までに申請ください。

学外の方の利用も可ですが、申請者は学内教職員または本学学生としてください。

（学外の方のみの利用は認められません。）

先述のとおり利用用途は限られていますので、申請時、用途欄はなるべく詳細に記載してください。

オープンイノベーション
プラザのページ





オープンキャンパスでの高校生を対象としたワークショップ「発想筋を鍛えよう！」や、先輩起業家との交流会など、4月にオープンしてからすでに多数のイベントをしています。

【弘大イノベーションパートナー】

Microsoft Teams内に「弘大イノベーションパートナー」を設置し、起業に関する情報提供、メンバー間の交流を行っています。

チームへの参加方法

弘前大学教職員・学生：以下チームコードより参加ください。

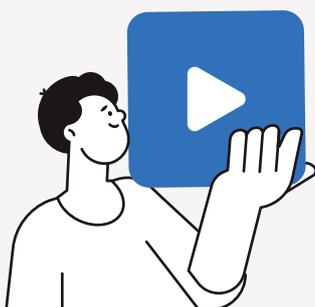
チームコード：**gljva3v**（すべてアルファベット小文字）

弘前大学以外のゲスト：弘前大学研究・イノベーション推進機構宛てに所属・氏名等を明記のうえ、参加したい旨を以下メールアドレスへ連絡ください。

メールアドレス：sangaku@hirosaki-u.ac.jp

【学術研究支援室】

コラボ弘大（弘前大学創立60周年記念会館）5階に「学術研究支援室」があります。こちらでは起業家（企業家）精神を持った、教職員、学生及び卒業生をサポートするための「起業相談窓口」を設置しており、研究・イノベーション推進機構に所属する本学のURA（リサーチ・アドミニストレーター）がみなさまをお待ちしております。



オープンイノベーション
プラザの紹介動画も
ご覧ください！



弘前大学Instagram



弘前大学入試課Youtube
(オープンイノベーションプラザの紹介は
10:35~11:00あたり)

些細なことでも積極的にご相談ください。

弘前大学研究・イノベーション推進機構
起業相談窓口の紹介ページです。

学術研究支援室不在の場合もありますので、
まずは起業相談事前シートを提出ください。



【青森県との連携】

青森県においても、県基本計画に掲げる2040年の目指す姿である「若者が、未来を自由に描き、実現できる社会」の実現のためには、社会の変革に挑戦するスタートアップ（革新的なビジネスモデルで創業し、短期間での急成長を目指す企業）の創出が重要とし、県内外でのネットワーク形成に向け様々なイベントやプラットフォームの形成に取り組んでいます。

オープンイノベーションプラザを会場に、青森県が主催するスタートアップ支援関係のイベントを実施しており、今後も順次開催する予定となっておりますので、ぜひご参加ください。

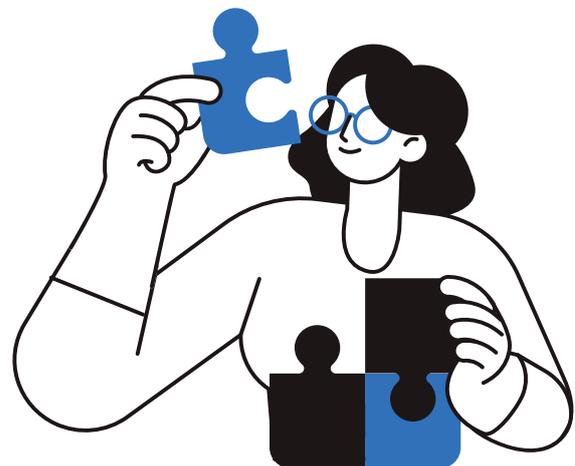


青森県のスタートアップ支援に関する
ページです。



弘前大学は内閣府「地域中核大学イノベーション創出環境強化事業」の3年目アワードにも採択されており、地域の課題解決やスタートアップ創出に引き続き取り組んでいきます。

ぜひみなさまも積極的にオープンイノベーションプラザを利活用いただければ幸いです。





第23回弘前大学総合文化祭を終えて

弘前大学学祭本部実行委員会 実行委員長 齊藤 将空

第23回弘前大学総合文化祭は10月18日(金)～20日(日)の間、実に5年ぶりに3日間開催となりました。総合文化祭としては23回目、弘大祭としては74回目の開催となりました。毎年10月の恒例行事として開催されている総合文化祭は、今年全くの制限が無い状態となり、本来の弘前大学総合文化祭の姿を皆さまに届けられたのではないかと思います。

今年度の弘大祭のテーマは『夢双(むそう)』です。このテーマには、弘大生ひとりひとりが持っている夢や思いが、弘前大学総合文化祭という舞台上で表現され、盛り上がってほしいという願いが込められています。

総合文化祭1日目の金曜日には

『Opening Festival 2024』が行われ、福田学長の開催宣言で総合文化祭が始まりました。その後のステージで行われた『熱唱カラオケ大会2024～予選～』では、どの出場者もそれぞれの思いがこもった歌で観客を魅了させていたのが印象的でした。1日目の最終イベントとして、青森を中心にアイドル活動を行っているMEGOiDOLの方々に来ていただき、ライブを行っていただきました。平日の夜とは思えないほどの盛り上がりを見せて、1日目は幕を閉じました。

総合文化祭2日目の土曜日は朝からの暴風雨の中でしたが、『熱唱カラオケ大会2024～本戦～』から始まり、決勝まで残った参加者の方は大雨にも負けない

歌声を響かせていました。午前中はやむを得ず、屋外出店とステージイベントである『これがおすすめ！〈模擬店参加型〉商品アピール対決』は非常に残念でしたが、中止という形となってしまいました。そんな厳しい状況の午前中とは打って変わって、午後になると天候が安定し、屋外出店も順次再開することができました。会場には午前中とは比べ物にならない程に大勢の来場者に恵まれ、活気が戻りました。その後に開かれた『よさこい弘大』では、会場が第一体育館へと変更されたにも関わらず多くの観客が詰めかけ、弘前大学よさこいサークルHIRODAI焔舞陣をはじめとした県内のよさこいチームによる圧巻のパフォーマ





ンスに会場のムードは最高潮になっていました。2日目最後のステージイベントであった『HIROROCK2024』では、夜のステージの風景とバンドの音楽が溶け合い、多くの人を魅了する空間を演出していました。

総合文化祭3日目の日曜日は寒空の下でしたが、天気は落ち着いた状態でのスタートとなりました。3日目最初のステージイベントは『Dance Showcase 2024』は弘前大学に所属するダンス系サークルをはじめとする参加者による、美しく力強いダンスパフォーマンスに思わず見入ってしまいました。その後に行われた『Performance Show 2024』では、お笑いや古武術、大道芸などの個性あふ

るパフォーマンスに多くの人が足を止め、発表に見入っていたのが印象的でした。そして『お笑いスペシャルライブin HIRODAI』では、おいでやす小田さん、大谷健太さんのお二人に来ていただき、老若男女を問わず多くの人の笑いに会場が包まれました。総合文化祭最後の企画である『Final Festival』では、福田学長に閉祭宣言をしていただき、2024年度の総合文化祭は幕を閉じました。その後、行われた『花火』では、総合文化祭の終わりを告げるかのように空に大輪の花が咲き誇っていました。

3日間にわたって、屋内での作品の展示やライブ、屋外での様々な食べ物が提供されていたことに加え、各学部の特色

ある企画など、場所を問わず様々な総合文化祭を盛り上げていただきました。

3日間でのべ1万人の来場があり、無事に総合文化祭を終えることができました。ご来場いただいた皆さま、各所で協力いただいた弘前大学関係者の皆さま、出店いただいた団体の皆さま、ステージ発表していただいた皆さま、その他関係していただいた多くの皆さまに心より深く御礼申し上げます。今年度の弘前大学総合文化祭が皆さまの思い出として残るものとなっていれば幸いです。来年もぜひ足を運んでいただければと思います。

こんなことやってます！

CLOSE-UP

人文社会科学部
日本史研究室

研究室紹介

助教 古川 祐貴



根拠を集め、
議論を重ねる



ゼミ旅行で訪れた日光東照宮(令和5年(2023)9月)

はじめに

日本史研究室の古川祐貴(ふるかわ ゆうき)です。10年にも及ぶ博物館勤務を経て、令和3年(2021)11月に着任しました。専門は日本近世史で、特に江戸時代のことを研究しています。

前職の博物館は対馬(長崎県対馬市)にありました。対馬は九州本土と朝鮮半島との間に位置する“国境の島”です。古くから朝鮮半島との関係が深く、江戸時代においては対馬藩として朝鮮外交・貿易を取り仕切っていました。対馬に^{つしまそうけもんじょ}対馬宗家文書が残されているのはこのためです。

対馬宗家文書は江戸時代の大名が残した歴史資料の中でも国内最大級の物量を誇ります。博物館勤務時には学芸員として対馬宗家文書の保存・管理にも携わっていました。ゆえに江戸時代の日朝関係史研究だけでなく、歴史資料そのものの伝来にも興味・関心があります。

1. ゼミの目標

私の専門は以上のようなものですが、ゼミ生には対馬にとらわれない研究に取り組んでもらっています。私からテーマを強制したり、地域や時代を指定したりするようなことはありません。日本史上の「ありとあらゆる問題」について、根拠(歴史資料)に基づいた実証的な研究を行ってこれればそれでよいと考えているからです。

これまで指導してきた学位論文の一部を紹介しましょう。一見しただけでも地域・時代が多岐にわたっていることが明らかです。

〈修士論文〉

撰関・院政期の中央貴族社会と陸奥国
〈卒業論文〉

明治期の陸軍と八甲田山雪中行軍遭難事件

松前藩とアイヌ間での儀礼について
—ウイマム：特に松前景広の事例に注目して—

本分家関係から見る黒石津軽家—参勤・軍役に注目して—

明治初期における斗南藩—弘前藩の支援から見た—

近世武家系図を巡る大名家と朝廷—延宝期津軽家を事例に—

※全ての学位論文は年度末に研究室で発行する『学位論文集』としてまとめてゼミ生に配付しています。



令和4年(2022)3月から刊行を始めた『学位論文集』

現在ゼミ生は、修士1年生2名、学部4年生6名、学部3年生6名の計14名です。各自が研究テーマを持っていて、大学院生を除いて、3・4年生合同でゼミを実施しています。

合同ゼミの形態をとっているのは、私が日本史研究室としての“一体性”を重視しているからです。自然科学に象徴されるように、人文科学も一人では研究ができません。論文は独力で書くことができますが、完成までには多くの人との議論が存在します。議論を重ねれば重ねるほど「問題」がクリアになり、仮説が洗練されていく、といったイメージです。ゼミ生にはぜひこうした体験を社会に出る前にして欲しいと思っています。

2. ゼミとしての活動

しかし、急にゼミで議論を戦わせることは難しいものです。週に1度顔を合わせるだけでは、信頼関係もできませんし、意見を言うのも躊躇^{ためら}ってしまいます。なので、本研究室では定期的に懇親会を開催したり、ゼミ旅行を企画したりして、ゼミ生同士の親睦を深める機会を作っています。

これらの企画は全て3年生が主体となって動きます。特にゼミ旅行は一大イベントです。交通手段や食事、観光地、宿泊先、しおり作成などを全員で分担していきます。4年生には前年度に担った役割に基づいて、3年生のサポートに回ってもらっています。こうした準備を行って行く中で「ヨコのつながり」が強化されるとともに、“タテのつながり”も生まれ、研究室全体としての“一体性”が醸成されるものと思っています。

企画の場に私が口を出すことはほとんどありません。学生たちが自ら考え、SNSなどを駆使して要領よく決めていってくれる



ゼミの様子

からです。私が着任してまだ2回しか実施できていませんが、次のような場所を訪れました。

〈令和4年〉

【北海道】ウポポイ(民族共生象徴空間)・国立アイヌ民族博物館・北海道博物館

〈令和5年〉

【栃木県】日光東照宮・宇都宮城址、【福島県】鶴ヶ城(会津若松城)

旅行後、参加者には旅行記を書いてもらっています。その旅行記は『学位論文集』に修士論文・卒業論文とともに収録しています。日本史研究室に所属した思い出にしてみらうとともに、先輩たちの背中を見て後輩たちが続けるよう意図したものです。

3. 学外調査への参加

私は現在、青森県五戸町の委託を受けて、大きなプロジェクトに取り組んでいます。令和5年(2023)4月14日に締結された「五戸町と国立大学法人弘前大学との連携協力に関する協定書」に基づく受託研究であり、令和5年(2023)度から8ヶ年(予定)で五戸町が所有する歴史資料の整理・研究を行うといったものです。

受託研究ではあまり見られない長期間が設定されているのは、五戸町に歴史資料(主に古文書)が手つかずの状態で大に残されているためです。私一人では到底太刀打ちできません。ゆえに私を代表とした学外の有識者組織を立ち上げ、そこに地方博物館の学芸員や他大学の大学院生にも参加してもらっています。令和5年(2023)度は3回の調査を実施し、2500点余りの古文書を調査することができました。

実はこの調査にもゼミ生数名を連れて行っています。歴史学は自ら新しい歴史資料を調査していくことが重要ですが、ゼミでは調査の仕方までレクチャーすることができません。ゆえに調査と一緒に行って行く中で、基礎的な調査方法を身に付けてもらおうと考えています。

先に述べたように調査には様々な立場の人たちが参加します。大学生活では会えないような人たちもたくさん含まれています。そのような中で調査することで、ゼミでは得られない刺激を受けることができていると思っています。予算の都合上、ゼミ生全員を連れて行くわけにはいきませんが、長



受託研究における調査の様子(令和6年〔2024〕8月)

期に及ぶ受託研究の中で、一人でも多くのゼミ生を参加させるつもりです。

※人文社会科学部地域未来創生センターの地域未来創生プロジェクト(地域資源研究プロジェクト)に「未調査資料の整理・研究と地域還元—五戸町所蔵「圓子家文書」を素材として—」(研究期間:令和5年〔2023〕7月~令和8年〔2026〕3月、研究代表者:古川祐貴)としても採択されており、その経費をゼミ生の参加費に充てています。

おわりに

私がゼミ生に望むのは、より広い視野をもって物事を見て欲しいといったことです。このことは日本史や歴史学だけにとどまるものではありません。社会問題は複雑化し、一つの考え方だけでは解決することが難しくなっています。ある問題にぶつかったとき、それを一人で考えるのではなく、多くの人と議論を重ねる。また常識的な見方ではなく、別の角度から眺めてみる。現地に飛び込んでみて五感をフルに活用する。—これだけで全ての社会問題が解決するわけではありませんが、新たな突破口が見えてくるのではないのでしょうか。

修士論文・卒業論文で取り組んだ内容がそのまま社会に役立つことはありません。それは私が専門とする研究分野においても同じことです。歴史学が身近な生活に役立つことはそうあるものではないからです。ただゼミを通じて得た考え方や方法、仲間はきっとこれからの人生を豊かにしてくれることでしょう。論文の執筆はとても辛いものです。しかし、辛いことを経験してこそ、楽しいことを本当に楽しめるとも思っています。研究室と一緒に盛り上げてくれるような、やる気のある学生が集まってくることを心から願っています。



海外だより

海外留学で見たこと感じたこと

Kia Ora!! Precious memories:)

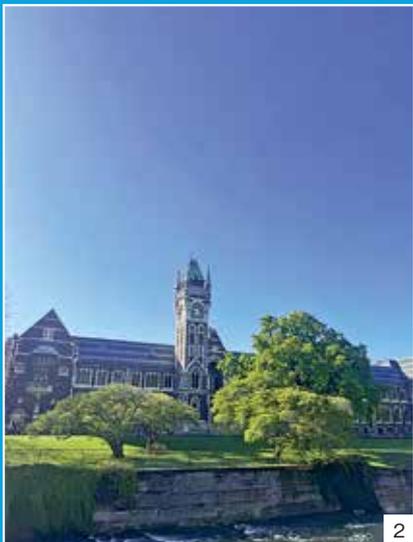
教育学部 学校教育教員養成課程 4年 佐藤 菜都乃



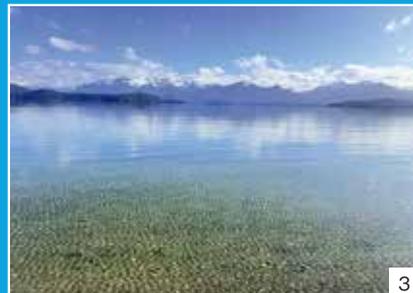
1

南半球の自然溢れる島国での留学生活

初めまして! 私は現在、交換留学生としてニュージーランドのオタゴ大学に留学しています。約7ヶ月南半球の島国で過ごしてきた留学生活の様子を、この見開き2ページに収まるようにできる限りみっちり報告させていただきます。



2



3

留学を決めた理由

私は元々海外に興味があったわけではありません。留学に興味を持ち始めたのは大学2年生と、かなり最近のことです。それまで海外経験が一度も無かった私は「海外ってなんか怖い」「英語で生活なんて自信ない」「色々不安だから留学は行かないかな」と、漠然と挑戦することから逃げていました。しかし、将来「英語教師」になりたいという夢を持ち教育学部に入ったこと、「行かない理由がないなら行った方が良い」という学部の先生の励ましのお言葉が、英語圏への長期留学という決断を後押ししてくれました。今となっては勇気を持って海外に飛び出して良かったと、心の底から思っています。ニュージーランドで過ごす時間は人生で一番濃い時間で毎日が学びで溢れているので、良い意味でとても長く感じています。



4



5

大学での学び

私は2024年の3月にオタゴ大学があるダニーデンに到着しました。3月から6月までの初めの3ヶ月間は語学学校の授業を受講し、7月から現在は学部の正規授業を受講しています。語学学校の授業では、大学の正規授業についてくためにレポートの書き方やノートテイキングの練習、そしてフィールドワークやグループリサーチなどクラスの仲間と実践的にコミュニケーションを取りながら英語力を総合的に伸ばす機



会もあり、とても充実した学びを得ることができました。現在大学の正規授業では、私は「留学に来たからこそ、視野を広げるために世界の様々なことについて幅広く学びたい」という思いがあったので、自分の専攻である「教育学」に加え、「心理学」「人文地理学」、そしてニュージーランドの先住民族である「マオリ」の文化に関する授業を履修しています。一見4つ全てバラバラな学問に見えますが、深く結びついている部分もたくさんあり、留学前全く知らなかったことを好奇心100%で、スポンジのように吸収できています。課題や試験は大変ですが、楽しみながら学んでいます。

人との出会い

また、ニュージーランドに来てから、これまで(多分)何百人もの人達と関わることができました。私は人と関わることが好きなので、人がたくさん集まる場所に時間がある限り足を運んでいます。大学主催の国際交流イベント、英会話セッション、大学の日本語



の授業と障害者施設でのボランティア、合唱クラブ、バレーボールクラブ、地域のお祭り、小学校の文化祭etc...興味があるものに飛び込むことで、国籍も年齢もバックグラウンドも違う、様々な人と出会う



ことができました。大学の授業を通して仲良くなった友達との時間はもちろん、地域の大人の方と関わる機会も私にとって宝物で、今となってはダニーデンに人生のロールモデルがたくさんいます。そしてニュージーランドの方は明るくフレンドリーで、道ですれ違って目が合うだけでもニコッと微笑んでくれます。留学は人との出会いで成り立っているとと言っても過言ではありません。こうした現地の人との関わりを通して、英語は学問ではなく、コミュニケーションの道具に過ぎないという当たり前を日々実感しています。

留学で人は変わる

そして、ニュージーランドの自然と大地が、私の価値観と考え方を教えてくれたように思います。1番は「寛容さ」です。様々な文化の人との関わりは、私の中の常識を破ります。マナーや習慣など「お？」と驚くことも時々ありますが、それはその人にとっての普通。色々な人の常識は、全部尊敬すべきものと捉えることができるようになりました。また、私はこの留学期間を通して「自分にも」寛容になることができました。留学前、何かと物事に正解を見つけ、正しい生き方をしようと堅い考え方をしていた私ですが、正解も不正解も気にしなくて良いことに気がつきま



した。もちろん、留学中は毎日が楽しいわけではなく、当然大変なことや苦しいこと、辛いこともありました。しかしそういった逆境に立ちはだかった時に、正解に迎いかず上手いかない自分を責めるの

ではなく、「辛い時期もあって当たり前」「無理しなくてもいい」「正解を探すのではなく、選んだ道を正解にすればいい」と、自分を労り、ありのままの自分を認めることができるようになります。ニュージーランドという広く壮大な大地が広がる自然豊かな国が、マイペースに生きるヒントを教えてくれたように思います。



おわりに

最後まで読んでいただき、ありがとうございます。海外は自分を成長させてくれる最高の場所、そして海外で得た経験は何にも代えがたい人生の糧になります。このレポートが、海外に興味がある方の背中を少しでも押せたら嬉しいです。留学に行こうか迷っている方、是非一歩踏み出してみてください！
The possibilities are endless :)



新任教員紹介

個性豊かな13名の教員が新たに着任いたしました



人文社会科学部

コミュニケーション講座



もろくま ゆうこ
諸隈 夕子

人文社会科学部に着任しました諸隈夕子と申します。専門は言語学で、特にケチュア語という、インカ帝国の時代から続く南米アンデス地域の先住民言語の文法を研究しています。

青森に来るのは今回が初めてで、雪国の暮らしや東北の言葉について皆さんから学ぶことの方が多かもしれません。教員としてもまだ経験の浅い身ですが、学生の皆さんとも一緒に成長していけたら嬉しいです。どうぞよろしくお願ひします。

人文社会科学部

コミュニケーション講座



でぐち まこと
出口 誠

このたび人文社会科学部（日本古典文学研究室）に着任した出口誠です。私はこれまで、今から約1000年前の日本の学者が、何を考え、どのように文章を織りなしていたかを研究してきました。当時は現在と同様に、学問はなかなか厳しい状況に置かれていたのですが、門閥の垣根を越えて教育に熱心だったことは特筆すべき美点でした。この姿勢を見習って、研究はもとより教育に努めてゆきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

人文社会科学部

国際社会講座



やまだ あつし
山田 敦士

10月1日に多文化共生コースに着任した山田敦士です。教養教育の中国語、専門教育の現代中国論を担当します。学生の皆さんには、決して古くなることのない、確かな人文学の力を身につけてほしいと思っています。そのために力を尽くします。東北に暮らすのは初めてですが、人も景色も穏やかな雰囲気が気に入っています。これからどのような出会いがあるか、楽しみにしています。

人文社会科学部

公共政策講座



いくた ゆうや
生田 裕也

10月から人文社会科学部公共政策講座に助教として着任しました生田裕也と申します。高校までの時期を鳥取、学部生の時期を福岡、大学院生の時期とその後数年間を京都で過ごし、この度、弘前に参りました。専門は憲法学であり、特に、議会と政府の間の関係を研究しています。専任教員として勤務するのは初めての未熟者ではありますが、本学における教育・研究に尽力したいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

理工学研究科

物質創成化学科



せきや りょう
関谷 亮

2024年5月1日付で、理工学研究科物質創成化学コースに着任しました関谷亮と申します。現在の研究対象は主に二つです。一つはナノ炭素材料の開発であり、もう一つは分子同士が自己組織化されることで形成される分子集合体です。前任は広島大学であり、弘前とは気候が異なりますが、だいぶ慣れることができました。新たな地で教育・研究を通して弘前大学の発展に貢献できるよう努めていきたいと思っています。

理工学研究科

地球環境防災学科

ひらの しろく
平野 史朗

5月に着任致しました。地震が発生するメカニズムについて、破壊、摩擦、および波の物理学と、数理モデリングやコンピュータシミュレーションを用いて研究をしています。弘前大学には、地震学に対して理論的にアプローチするための研究・教育環境が、国内有数と言える水準で整備されています。その更なる発展に貢献すると共に、新たな視点も提供できれば幸いです。よろしくお願い致します。

農学生命科学部

食料資源学科



ふじた かずき
藤田 一輝

2024年7月1日付けで農学生命科学部食料資源学科に着任しました、藤田一輝と申します。前職では北海道立総合研究機構にて、作物栽培に関する研究を行ってきました。専門は土壌学で、特に土壌中の養分循環と微生物の関係について研究しています。今後は、青森県をはじめとした東北地方で、土壌微生物の機能を活かした持続可能な農業や環境保全に向けた研究に取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

医学部附属病院

整形外科



きむら ゆか
木村 由佳

2024年10月1日より弘前大学医学部附属病院整形外科に着任いたしました。私はスポーツ整形外科を専門として臨床、研究を行っておりましたが、このたびは健生病院回復期リハビリテーション病棟で6カ月間の研修を行い、戻ってまいりました。リハビリテーションで学んだ経験もいかして、弘前大学および附属病院での臨床、研究、教育に携わっていきたく考えております。どうぞよろしくお願い致します。

医学部附属病院

泌尿器科



さとう てんどう
佐藤 天童

弘前大学医学部附属病院泌尿器科学講座に着任いたしました佐藤天童と申します。大館市立総合病院、つがる総合病院にて計8年研鑽して参りました。

8年ぶりの弘前大学医学部附属病院は新病棟の竣工稼働が行われ、私が知っていた病院の風景とは大きく様変わりし驚嘆しております。

臨床医として諸先輩方から様々な御指導御鞭撻を頂きました。その経験を若い世代へまた還元できればと考えております。

宜しく願いいたします。

医学部附属病院

泌尿器科



むらさわ ひろみ
村澤 洋美

令和6年10月より医学部附属病院泌尿器科へ着任いたしました村澤洋美と申します。前任の鷹揚郷腎研究所弘前病院では血液浄化療法や尿路結石の治療を中心に行っておりました。前任での経験を活かしながら、泌尿器悪性腫瘍の手術や薬物治療等に携わっていきたくと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

被ばく医療総合研究所



ドノヴァン アンダーソン

Donovan
ANDERSON

10月1日付けで被ばく医療総合研究所の国際連携・共同研究推進部門に助教として着任した米国コロラド出身のDr. Donovan ANDERSONです。コロラド州立大学で修士号、福島大学 環境放射能研究所で博士号を取得後、筑波大学で1年間勤務しました。弘前大学で低線量放射線や生体影響評価の研究の傍ら英語の授業も担当しています。国際的な協力を推進し、海外の研究機関の研究者との連携に努め、海外の学生を弘前大学へ招く教育交流を促進することに尽力しています。

リチウム資源総合研究機構



わしず けいた

鷺巣 敬太

6月よりリチウム資源総合研究機構の准教授（URA）に着任しました鷺巣敬太と申します。VCや戦略コンサル、スタートアップでの勤務経験を活かして、補助金等の外部資金獲得、大学発スタートアップの立ち上げ支援をさせて頂く予定です。研究成果を事業化し、大学の研究が世間でより高い評価を得られるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。

夏から秋の風景

Photograph



リチウム資源総合研究機構



しどう こうすけ
志藤 広典

令和6年8月1日付でリチウム資源総合研究機構の助教に着任しました志藤広典と申します。これまでずっと東京で暮らしてきましたが、縁あって弘前にやってきました。これまでは主に液晶物質や金属酸化物の相転移挙動や分子運動を専門に研究してきました。弘前大学ではLi同位体の濃縮について研究を行っております。まだまだ未熟ではありますが、弘前大学での研究に尽力して参ります。よろしくお願いたします。





TOPICS

弘前大学 「教育に関する表彰式」を実施



8月7日(水)、「成績優秀学生」及び「教育に関して優れた業績を上げた教員」の表彰式を行いました。

表彰式には、各学部等から推薦された教員10名中9名、学生27名中19名が出席し、教育担当理事、各学部長及び研究科長等が列席する中、福田学長から表彰状と副賞が授与されました。

福田学長から、「本日の表彰は、皆さんのこれまでの努力と成果を讃えるものであると同時に、更なる飛躍を期待するものであり、今後の挑戦や、困難へ立ち向かうための後ろ盾となることを期待している」との祝辞がありました。続いて、教育学部 原 郁水 准教授、医学部心理支援科学科 4年 新岡 沙季さんから受賞者を代表して挨拶がありました。

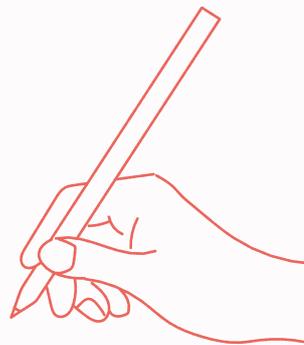
引き続き、成績優秀学生のうち最高学年次の学部学生と教職員による懇談会を行い、本学の教育をより良いものにするため、意見交換を行いました。

大学からの支援についての意見や要望など、率直な意見が出され、今後の改善に活かされることが期待されます。





編集後記



学園だよりでは毎号さまざまな特集が生まれ、本学の多彩な研究室や施設が紹介されるとともに、先生方や学生たちの多様な声が寄せられます。そのなかでもとくに、諸外国に留学中の学生から届く「海外だより」と、毎年12月号に掲載される「弘前大学総合文化祭」の報告記事では、キャンパスライフ的一幕が飾らない言葉で語られ、学生時代の煌めく時間を少しだけ共有させてもらった気持ちになります。

ご家族や中学生・高校生のグループが、さまざまな企画や展示、ステージを楽しんでいました。自治体とコラボレーションした模擬店では、特産品をつかったメニューが飛ぶように売れていました。遠方の卒業生がサークルや研究室を再訪してくれることもありました。

文化祭や留学に限らず、人生では思いがけない人との交流を通して、自分の得意分野に気づいたり、将来すすみたい進路が見えてくる場合があります。皆さんはこの一年、どんな出会いを経験しましたか？冬休みにゆっくり振り返ってみてはいかがでしょうか。

人文社会科学部 近藤 史

C0・OP 学生総合共済は弘大生の9割以上が加入している「たすけあい」の制度です。
身のまわりでケガ通院や病気で入院した学生がいたら。「共済金の請求した？」とお声がけください。その一言が「たすけあい」に繋がります。



大学生協共済キャラクター「タヌロー」

2023年度(2023.4~2024.3)弘大生の病気・事故(ケガ)等による学生総合共済のお支払い件数・お支払い金額は

374件 30,023,500円

【2023年4月~2024年3月の給付件数と給付金額】(円)

*C0・OP 学生総合共済 G1200 コースの実績です。

C0・OP 学生総合共済		
共済事由	お支払い件数	お支払い金額
病気入院	76	13,399,500
病気手術	56	2,740,000
事故入院	31	2,340,000
事故手術	12	600,000
事故通院	143	2,524,000
こころの早期対応	42	420,000
本人死亡	2	2,000,000
親扶養者死亡	12	6,000,000
合計	374	30,023,500

病院にかかったら共済カウンターへご相談を！

【学生総合共済 給付事例】

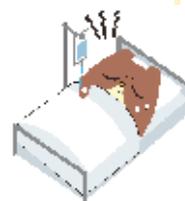
運動中のケガが一番多いですが、日常生活の中でのケガや病気は誰にでも起こり得ます。

●病気《自然気胸》
授業中、胸が痛くなり呼吸がしづらくなり立てなくなりすぐ病院に行った。
入院6日 共済金 60,000円

●病気《適応障害》
入学後のストレスで発症した。
こころの早期対応保障 共済金 10,000円

●事故《アルバイト中の事故》
アルバイト先のオープンでやけどをした
通院3日 共済金 6,000円

※詳しい保障内容はC0・OP 学生総合共済のパフレットをご覧ください。



学生委員会が学生総合共済の毎月の特徴的な給付内容を掲載し作成している「たすけあいボード」

C0・OP 学生総合共済 共済カウンター
文京地区：たび shop
本町地区：FERIO 店



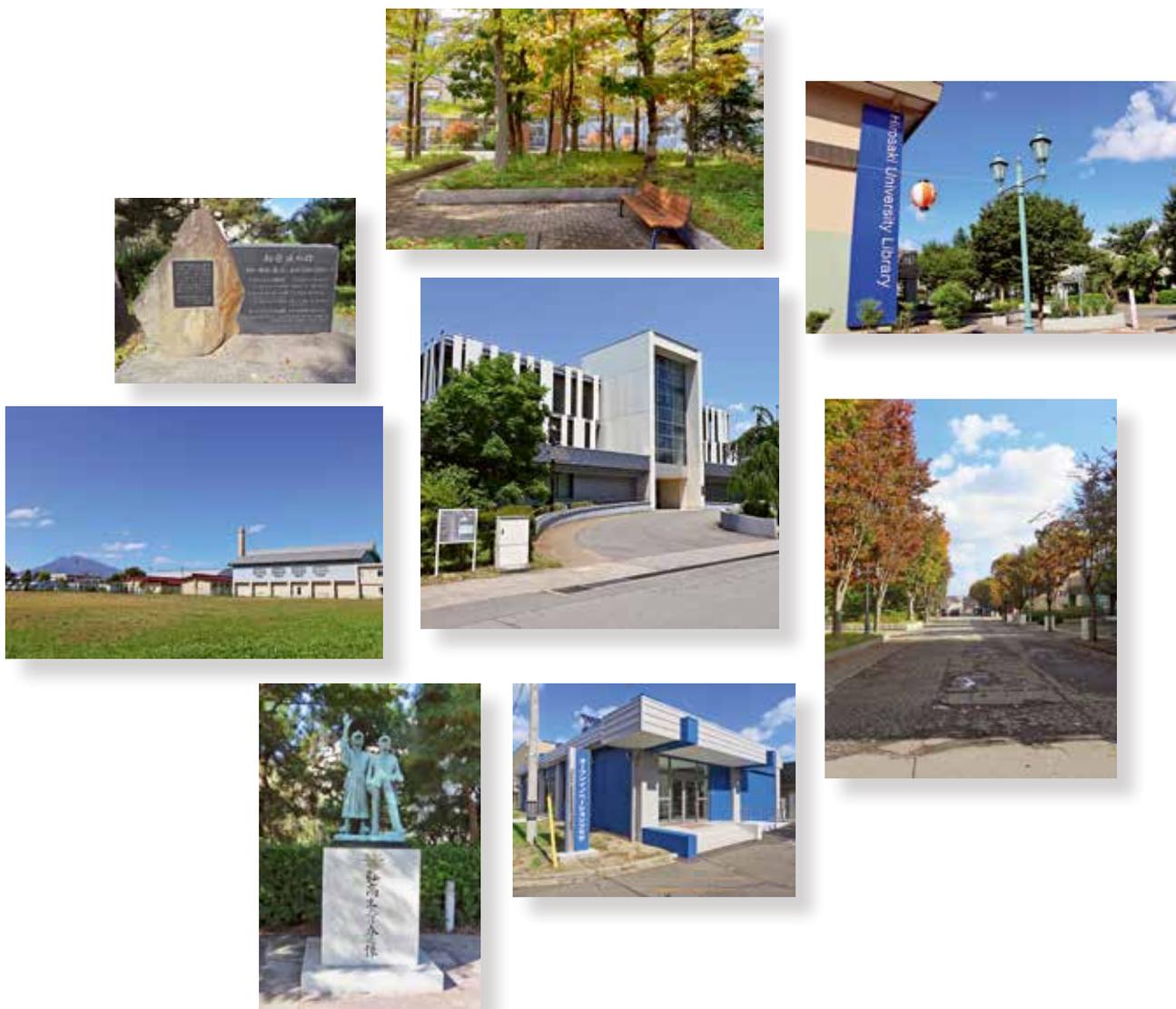
共済のお手続き・契約内容の確認がスマホやPCからできる！ 「共済マイページ」に登録を！！

共済マイページは、スマートフォン・パソコンから共済の手続きや契約内容の確認がおこなえるサービスです。契約内容をいつでも確認でき、24時間いつでもどこでも手続きできます。不安な時やわかりにくい時は生協店舗 共済カウンターへ！

大学が窓口になっている【学生教育研究災害障害保険(学研災)】の給付状況(2023.4~2024.3)

※学研災の「加入」確認も生協店舗【たび shop】でできます！

学研災では **正課中のケガ3件 95,000円** の給付実績がありました。



弘前大学
 学園だより

vol.211 / 2024年12月発行 題字：福田眞作 学長

編集：国立大学法人弘前大学「学園だより」編集委員会

委員長：平野 潔（教育委員会）

委員：近藤 史（人文社会科学部）

吉澤 忠司（医学研究科）

丹波 澄雄（理工学研究科）

成田 和香（学生課）

帆苺 基生（教育学部）

伊藤 巧一（保健学研究科）

管原 亮平（農学生命科学部）

白石 興介（学生課）

印刷：コロニー印刷

弘前大学

検索

学園だよりに関するご意見がございましたら、下記のアドレスまでお寄せ願います。

弘前大学学務部学生課 e-mail: jm3113@hirosaki-u.ac.jp